

武蔵野、朝霞に大型工場

セブンイレブン向けに弁当やおにぎり、サンドイッチなどを製造する武蔵野(埼玉県朝霞市、安田信行社長)は朝霞市内に新工場を造る。市内の既存2工場を統廃合して、製造能力を1.5倍に引き上げる。投資額は約80億円で、2014年6月の稼働を予定する。セブンイレブンの大量出店に対応し、製造能力を高めて需要を取り込む考えで、地元からの採用も増やす。

おにぎり製造能力1.5倍 セブンイレブン 大量出店に対応



工場近隣を中心に、パートを大量雇用する(既存の朝霞市の埼玉工場)

が効果的と判断をした。既存工場の跡地はグループ企業の生産拠点や物流施設への転用、不動産事業への転換などを検討しており、売却の予定はないという。

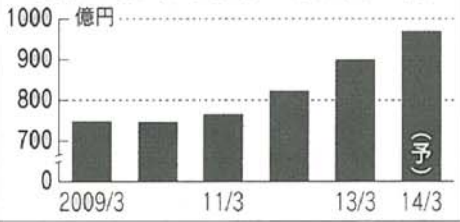
武蔵野は69年に前身の会社を設立。パン小売店

向けに弁当や調理パンなどを製造していたが、81年からセブンイレブン・ジャパンとの取引を始めて急成長、宮城県から福岡県まで全国に子会社も含め17カ所の製造拠点を持つ。14年3月期の売上高は前期比8%増の9

70億円の見通しだ。非上場で投資資金は銀行借り入れなどで対応する。セブンは14年2月期に1500店を新規に出店し、3期連続で過去最高の出店数となる見通し。武蔵野の既存2工場は埼玉県などの約3300店

のセブンイレブン向けに商品を納めており、新工場の稼働で「おにぎりなど米飯を中心に販売を伸ばす」(安田社長)考えだ。同社はおにぎりの具材「ツナマヨ」など、コンビニの定番商品を数多く開発した実績を持つ。

増収が続く武蔵野の単独売上高



新設の「新埼玉工場(仮称)」はJR北朝霞駅近くに建設。以前、メーカーの研究所があった場所、既存の2工場からは1.5キロメートルの距離に位置する。4階建てで延べ床面積は約2万2500平方メートルの大型工場になる。

新工場の稼働で1日当たりのおにぎりの生産能力は約140万個と、現

在の2工場の合計と比べても5割増える。従業員数は当初、社員とパートを含めて約700人と、地元を中心に新たに110人を採用する見通し。受注状況を見ながら、1年後にはさらに100人、150人を増やす計画だ。

工場内には連続してコメを洗って炊き、蒸らす

「炊飯ライン」を4ライン備えるほか、トンカツなどを揚げる設備など調理場を備える。納入されたコメを貯蔵するタンクの容量も48と5割増になる。

敷地に余裕があるため、さらに設備を増強することが可能。既存の工場は狭く、新工場で効率的な生産ラインを作る方

だ。